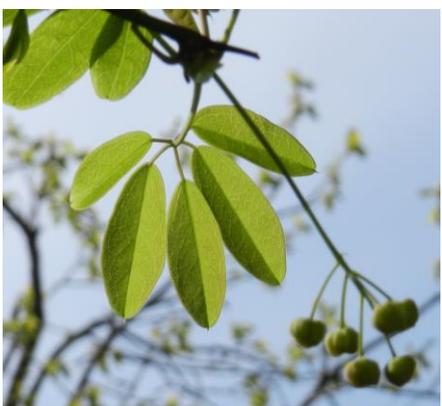


# 五葉木通 (ごようぶつじゆ)

…短所を長所に置き換える…

農業用水沿いのフェンスに、みごとな五葉あけびの蔓(つる)が伸びているのを見つけたのは数年前の五月上旬だった。以来、私はこの時期になると、時々その蔓を手折っては相談室の花瓶に活けて楽しんできた。ところが今年は工事のため、その場所が掘り起こされている。工事はいま中断しているが、再開されれば全滅の心配がある。



五葉あけびは茶花として、お茶席では重宝がられているそうである。しかし地味な植物なので、雑草のように扱われても仕方がないのかもしれない。そこで私は数株を持ち帰り自宅の庭に植えた。このカラ梅雨で根がつかどうかが心配だったのだが、いまのところ、元気に蔓を伸ばしている。

五葉あけびは、あざみ、ほたる袋、月見草、踊り子草などと同様、目立たない野花である。しかし、ともすれば見逃してしまいうような平凡なものの中にある、キラリと光る美しさを発見する喜びは、実は、満開の桜に出会う喜びよりも私を有頂天にさせるものだ。…とくに、マクロレンズで撮影するときなどは、一人で悦に入っている。

「自分にとって最もイヤな部分、つまり、自分にとって短所は何かを考えてみてください。…その短所が必ずいつかはきつと長所になるのでですよ」…ある研究会で、講師の先生からそう教えられた時、私は「ハツ」と気づいた。子どもの頃から三〇代の中頃まで、私は自分が嫌いだっただ。…他人の目を気にして、言いたいことが十分に言えない自分が嫌いだっただ。そしてその性格は私の短所だと思っていたのである。

…しかし、それがいつの間にか長所に変っていたようである。…そんな自分だからこそ、カウンセラーになつたように思える。そんな自分だったからこそ、悶々と悩み、そして今は、少しは悩む人の横にいられるようになったのだ。…そんなことを考えていると、ありのままの自分を認めることができず苦しんだ経験さえも、今日の自分のために準備されていたのかと驚くばかりである。

私は今、岡山市沢田の、操山の北側斜面に建つ古い家を借り、相談所開設のための準備をしている。その相談所の名前も『沢田の杖塾』という名称にした。沢田相談所という名称にしなかったのは、カウンセリングだけでなく、教師や親や子どもたちのための座談会やセミナーなどにも使用したいからだ。

『杖塾』という名前は、転ばぬ先の杖、転んで立ち上がるさいの杖として、ここを利用してほしいという願いからつけた。…登山のとき、登山道わきに転がっている棒切れを拾って杖として使うことがあるが、そんな杖だ。下山して、もう用がなくなれば捨ててしまっても良い。そういう杖として、この施設が使われることを願っている。

「杖塾」としてお借りすることになった家は、庭続きの柿畑まで入れると六〇〇坪もの敷地になると聞いている。この縁側から眺めると、サツキ、椿、山桜、梅などが生い茂り、この場所がはたして旧市内なのかと不思議に思えるような場所だ。その木々の下にはまた、多くの野草たちが茂っている。多くの小鳥たちのさえずりも聞かれる。

…私は不思議な縁で、この場所にも私の仕事を与えられていること、そしてそのため知らず知らずの間に、私の人生の中で多くの準備がなされてきたことを感謝して、この場所を受け取ろうとしている。

自分を好きになれない多くの人が、この場所で癒され、短所を長所に置き換えて、大切な人生を生き直してくれたいことを願っている。

二〇〇七年